氏名　大口義人

学位の種類　医学博士
学位授与番号　乙第815号
学位授与の日付　昭和51年12月31日
学位授与の要件　博士の学位論文提出者
（学位規則第5条第2項該当）

学位論文題目　**アレルギー性疾患及び膠原病におけるIgEに関する臨床的研究**
第1編　アレルギー性疾患及び膠原病における血中，滑液中，尿中IgEレベルとその意義
第2編　気管支喘息及び慢性関節リウマチに対する金塩の作用並びに副作用の機序

論文審査委員　教授　木村郁郎　教授　長島秀夫　教授　児玉俊夫

学位論文内容の要旨

組織中のIgEの測定は，近年になってRadioimmunosorbent technique が開発されて以来，急速に普及してきたが，アレルギー性疾患及び膠原病における病態を解明した報告は少ない。さらに，気管支喘息と関節リウマチの治療に用いられる金塩の作用機序及び副作用の発症機構については全く不明である。そこで著者は，上記疾患の組織IgE を測定し病態とその病因的意義を検討するとともに，金療法経過中と副作用時におけるIgEを経時的に測定した。副作用時には，好酸球数，金塩による皮内テスト，ラット肥満細胞を用いた脱顆粒試験，血中金濃度の測定を同時に行ない，副作用発症機構を解明した。

第1編では，各種疾患の血液，滑液及び尿中のIgEを測定し，アトピー型及び混合型気管支喘息，ペニシリンによる薬疹例の末血に有意の高値をみとめた他，関節腔ではIgG，IgMが局所産出されているのにIgEはむしろ消費され，関節炎症の成因に関与していることがうかがわれた。さらに，尿中IgEの大部分は尿路系において局所産生されていることが推論された。

第2編では，金塩の薬理作用を検討するために経時的に尿中17－Ketogenic steroid と末血IgEレベルを測定したところ，金療法開始後2ケ月前後で尿中17－Ketogenic steroid の排泄増加がみられ，治療前のIgEが高値を示した9例中7例に金療法経過につれIgEが低下を示し，作用機序の一因であると考えられた。

関節リウマチ患者の金療法による副作用例に対し上記検査を行なったところ，少数例に，

末血IgEレベルが上昇し，血中金濃度が低く，金塩を抗原とした皮内反応，脱顆粒試験が陽性であり，著しい好酸球増多を示す症例の存在を確認した。これらの症例は，金投与量が比較的少量であり，副作用の発症にアレルギー機構の関与が考えられたが，大多数例は中毒性であり，発症機構にアレルギー，中毒性の両機構が存在することが結論された。

論文審査の結果の要旨

本研究は主に気管支喘息及び関節リウマチについて血清，滑液，尿中のIgEを検索し，又金療法の機序を追求したものであり，従来十分に解明されていなかった免疫グロブリンの動態及び金療法の機序について重要な知見をえたものであり価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。